

(様式2)

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1595400027		
法人名	有限会社 大輪		
事業所名	グループホーム 奥阿賀 大輪の里		
所在地	新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬11603番地		
自己評価作成日	平成30年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム奥阿賀 大輪の里は、「角神温泉郷」の中の自然が豊かで四季折々の風景が身近に感じられる静かで安全な高台に立地しています。施設の周辺を散歩したり、植物を育てたりと優雅に過ごせる環境にあります。建物は木のぬくもりある造りで、お風呂は自慢の天然温泉でゆっくりと好きな時間に入浴することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地からは距離のある高台に位置しており、交通の不便さはあるが周辺は自然豊かな環境で、湧き出る温泉と四季折々の移り変わりを身近に感じながら過ごすことができている。

運営推進会議を活用して、地域行事に参加する機会や来訪するボランティアも年々増えてきており、管理者・職員は地域密着型サービス事業所としての意義をふまえながら、より地域との交流が図られるように取り組んでいる。今年度は新たに「地域の茶の間」等に出かけることを計画している。職員が地元出身であり、地域や公的機関、商店、他のサービス事業所とも顔見知りであることから、日々情報の収集や助言をもらうなど連携が図られている強みがある。同地区に所在する地域密着サービス事業所間で「連絡協議会」が立ち上がっており、情報や意見の交換を行うなど、地域密着サービス事業所全体でサービスの質の向上に取り組んでいることがうかがえる。

利用者の医療面については、行政から配布される「連携ノート」を介して町内全域で医療と介護の連携が図られており、医療情報及びサービス利用の経過が、関係する事業所と医療機関で共有できるシステムとなっている。事業所では町内医療機関については同行受診を行ってさらに医療との連携に努めており、利用者・家族の医療に対する不安の軽減を図っている。

管理者・職員は常に利用者本位の暮らしを支援できるように、利用者やゆったりと過ごす時間の確保に努め、利用者の思いや願いを聞き逃さないようにして寄り添ったケアが提供できるように取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰にでも理解できる分かりやすい理念を作成した。日々のケアの中で理念を忘れない為に常に見える場所に提示し、実践につなげている。	理念は開設時に代表者と開設時の管理者とで作ったものを一度分かりやすい文言に見直し、継続して掲げている。さらに「合言葉」をつくり、理念の実践に向けて具体的に職員がどの様に日々のケアの中で意識して取り組んで行くかを明確にしているが、全職員で「理念」について見直す機会が持たれていない。	理念は事業所の目指す方向性を端的に示したもので、職員が日々のケアの中で迷ったときに立ち戻る根本的な考えである。これ迄は理念を共有することに努めてきたが、今後はさらに理念を振り返ったり、日々の中で話し合う機会を持ち、全職員で理念を意識して、目指すケアの実践に向けて取り組むことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの集落の自宅でのお茶飲み会などの交流や花火を見に行ったり交流に努めている。	花火大会の観覧や町が主催する文化祭への出品などを通じて地域行事に参加できるように取り組んでいる。また、ギターやフラダンス等の慰問ボランティアの来訪も増えてきている。平成30年度は地域で開催されるサロン「みんなの家」への参加を通じて地域住民との交流が図れるように計画している。	集落内は事業所のほか一世帯のみであり、交通の不便さからも日常的な地域との交流が難しい環境にある。だが、利用者が事業所の中で暮らしを完結するのではなく、地域で暮らし続けることを支援するために、さらに職員間でアイデアを出し合いながら取り組んで行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の事業を通して地域に出向き相談等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二ヶ月に一度の頻度で区長や地域包括センター職員から参加していただき、現状報告や活動報告を行い、助言や意見をいただいている。	会議は同敷地内にある小規模多機能型居宅介護事業所を会場に合同開催している。メンバーは、家族代表、区長、民生委員、ボランティアの会、地域包括支援センター職員で構成し、状況を見ながら利用者の参加もある。主に事業所からの報告が多いが、地域の行事などの案内をもらうことで交流活動につなげることが出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方とは電話やメールで情報や助言等を得ている。	市町村からの委託で地域住民への日常生活調査に出向く機会があり、地域住民のニーズ等を拾い上げて地域の課題について共有することができている。運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターが市町村直営であることから、事業所の課題等についても改善に向けた協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の想いを中心に据えた対応を心掛け、利用者の意に反する援助や助言をしないようにしている。夜間を除き玄関等の施錠もしておらず自由に出入りができる環境にある。	管理者は「身体拘束をしないケアの実践」について、利用者の自由な暮らしを支援するために身体拘束が弊害となることを全職員に事業所会議の中で伝えている。いかなる場合も身体拘束をしないケアの実践に全職員で取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行ってはいけないことと全職員に周知し、細心の注意をはかっている。関連法についての学習については十分とは言えない。	年に1回言葉による虐待も含めて事業所内研修を実施し、外部研修に参加した職員からも伝達研修を通じて共有が図れるようにしている。研修以外にもテレビ等で施設内虐待がニュースとして報じられた時には職員で話合う機会を持っている。また、管理者は職員がストレスを抱え込むことがないように、日常的に職員への目配りを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では成年後見人制度を必要とされる利用者は居ないが制度を理解する為に学ぶ必要があると考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者が利用者及びご家族に対し契約書と重要事項説明書で詳細を説明し、理解・同意を得たうえで契約をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には事業所にいつでも来てもらえるよう働きかけている。来所時には利用者の近況報告を行い、意見や要望を聞き、反映された支援内容になるよう努めている。	職員が地元の住民であることもあり、家族とは何でも言える事業所として関係性が築かれている。さらに管理者は言い難い家族の心情に配慮し、定期的な手紙やメールでのやり取りを通じて、意見・要望の申し出を促している。利用者には担当職員のほか管理者も一人ひとりの利用者と居室でゆっくり話す機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で職員からの意見・要望があった際には、職員会議で検討を行い反映させている。	月に1回の事業所内会議では、利用者の課題検討のほかに業務改善についての話し合いを行っている。また、普段から管理者には意見が言いやすい雰囲気が作られており、平成29年度は外部研修への参加が多くできるように改善が図られた。年末には職員の代表者と個別に面談する機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自らも現場に来て、職員から話を聞いたり様子を見て、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得や技術向上へ向けての研修会に参加してもらい、日々のケアに努めている。また、研修参加の希望があれば応じるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿賀町の4事業所で構成する協議会において他事業所と交流を図っている。他事業所の活動報告を聞いたり、助言をもらうことで関係を築きながらサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に慣れて頂くことを最重点とし、本人から不安事や心配事を聞き安心してご利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人の気持ちを把握するだけでなく、ご家族の希望や要望も把握し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される際には、ご本人・ご家族とお話しするなかで、ニーズを把握し適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者お一人お一人のこれまで行って来たこと今できることを見つけ支援している。日々の中で利用者に対する感謝の気持ちの声かけ直接伝え、一方的な立場にならないように関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用料等の請求書を送る際に利用者一人一人の生活の様子を記載した手紙を同封している。面会時や電話でも利用者の様子を伝え、家族と情報の共有を図るよう努めている。	事業所での利用者の暮らしについては、面会時や月に1回の手紙で家族に詳しく知らせしている。また、利用者に普段と違う様子が見られた際には、電話やメールを活用して常に利用者の状況が共有できるように努めている。利用者の思いや意向については、実現できるように家族と事業所が協働して取り組んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の知人・親戚等の方も来所しやすい環境を作り、交流しやすく努めている。	初回アセスメント時に把握できた馴染みの場所や趣味活動が入居後も継続できるように取り組んでいる。平成29年度は、遠方の実家に行って見たいと希望した利用者の思いが実現でき、また、ハーモニカの演奏を引き続き実施出来るように環境を整えている。病院が知人との社交の場となっていることもあり、ゆっくり話ができるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋の閉じこもりを防ぐ為に、居室で過ごされる方には、定期的に声掛けを行い、負担にならない程度のホール誘導を行っている。利用者同士が協力し、支え合っている光景もみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が入院された時も、本人に面会に行ったり、家族と連絡を取り合い、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や会話などからご利用者の想いを把握したり、ご家族からも生活歴などの確認を行い努めている。	日々の暮らしの中でゆっくり利用者向き合う時間をつくり、意向や思いを把握している。入居後に職員が新たに気づくことが出来た利用者の思い等は支援経過や、更新するアセスメント票に記載して職員間で共有できるようにしている。言葉に上手く表出できない利用からは、家族の代弁や、本人の表情などから把握するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日々の関わりだけでなく、ご家族にも聞き取りを行い、把握するよう努めている。	新しく入居を希望する利用者は、サービス事業所から直接移行してくるケースが多いが、事前面接の際に利用者・家族、サービス事業所職員から聞き取りを行い生活歴等の把握に努めている。必要に応じて自宅に行ったり、周辺の環境を確認する場合もある。入居後も利用者の言葉や習慣から情報を積み重ねている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者お一人お一人のできることを把握し、それぞれ無理のない程度に日々の活動の中にそれを取り入れ、ご本にの意思を尊重しながら、役割をもって頂く様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議等にて職員の意見やアイデアを聞き、ご家族の意向を踏まえ、ケアプランの作成・見直しを行っている。	介護計画の作成にあたっては、事前に利用者と家族から意向を聞き取り、担当職員の記載する「月間報告書」や他の職員の意見も聞きながら作成している。モニタリングは3ヶ月に1回実施しており、利用者の現状に即した計画となっている。長期目標・短期目標・援助内容は、個別の支援経過記録用紙に落とし込んでおり、職員は日々確認しながら、目標が実現できるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用いて、様子や職員からの気づき等を記録し情報を共有しながら介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ご本人、ご家族の希望に対応した柔軟な支援や多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	集落が離れた場所にある為、近所付き合いは十分ではないが、出来る限り出掛ける様に努めている。今後も計画を立て、地域のつながりを支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族と話し合い適切な受診ができるよう支援している。ご利用者に職員が付き添いをし、医師との連携を図っている。	入居の際に利用者・家族の希望と病歴等を聞き、適切な医療が受けられるように支援している。事業所が所在する町内の医療機関の受診については、家族の事情も考慮しながら職員対応としている。区域外については家族対応の受診となっているが、介護申請とともに市町村から「連携ノート」が配布されるため、サービス事業所・医師・家族が常時連携を図れるシステムとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携ノートや電話等で連絡を取り、適切なサービスを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、定期的に面会に行きご本人の様子を見に行くだけでなく、病院関係者からも様子を聞き情報交換等しながら連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の対応範囲を説明している。ご利用者の状態変化が見られた時は、その都度ご本人、ご家族の意向を聞き、事業所としてのできる範囲以内で支援している。	契約時に退居の要件とともに重度化した際の事業所の方針を説明し、利用者・家族から同意を得ている。常時医療行為が必要となった場合は、医療スタッフの確保が困難な地域事情にあるため事業所で終末期を過ごす事はできないが、かかりつけ医、家族と相談しながら、できる限り長く過ごせるように支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所マニュアルに従い対応している。研修も行っているがまだまだ十分とは言えない。実践力を身に付ける必要性が感じられる。	AEDを整備し、消防署の協力を得ながら年に1回は心肺蘇生に対応した研修を実施している。急変時の対応についても、連絡先のフローチャートを見やすい場所に設置し、通報と合わせて適切に行えるように訓練している。感染症が発症した際の対応訓練にも重点的に取り組んでいる。	夜間は職員が一人体制であることから、全ての職員が適切な初期対応が行えることが望まれる。起こりうる事故や急変状態を想定してさらに実践的研修を繰り返して行い、職員の力をつけていく事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員の協力を得ながら年2回の避難訓練を実施しており、職員は利用者の避難方法や緊急連絡方法などを体得している。しかし、地域との協力体制の構築までは至っていない。	事業所が集落から離れており、集落内も住民が少なく協力体制が得にくい状況に有る。これまでに火災訓練の実施は行っているが、雪害・停電・地震等の事象別の訓練はまだ計画段階にある。備蓄についても、立地条件等をふまえてさらに整備して行くことを検討している。	事業所の周辺環境もふまえ、職員がいかなる災害にも対応できる力を身につけるために、事象別のマニュアルの整備と訓練を重ねていくことが望まれる。また、唯一ある近隣のサービス事業所や少ない集落住民との協力体制も強化して行くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切にし、さりげないケアを心掛け、本人が自己決定しやすい言葉掛けをするよう努めている。	職員は、合言葉に謳われているように、職員自身が言われたくない事やしてもらいたくない事は利用者には絶対に行わないという意識で日々ケアの実践に努めている。また、どの場面においても、利用者を確認や選択を促しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で言葉だけでなく、表情等の非言語のものからも、思いを把握し、自己決定を促しているが、十分な表出に繋がらないことがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせて、意見を尊重しながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意見を聞きながら、衣類は決定している。髭剃りや、散髪など細かい面でも気を配りながら支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取入れメニューを考え、食前の準備、食後の下膳等、本人ができる範囲以内で手伝っていただいている。イベントでは、特別メニューを考えたりと食での楽しみを支援している。	献立は担当職員が、2週間ごとに利用者の意向を聞きながら作成している。利用者全員が美味しく食べられるように、事前に好みや苦手な食品の聞き取りを行いながら、決め細やかに工夫をしている。パンケーキなどの手作りおやつは利用者と職員と一緒に楽しみながら作り、普段の食事でもできる範囲で利用者から参加してもらうように声掛けしている。また、多くの行事食や、希望によっては外食に出かけるなど食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に応じて刻み色や、粥食に対応し、摂取しやすいように支援している。水分補給は時間以外にもこまめに摂れるように気を遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の状態に応じ、ご本人でできる方は見守りや声掛けを行い、必要な方には介助にて、毎食後全員の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、尿意のある方はできるだけトイレで排泄するよう促している。トイレへの誘導の際は、さりげない声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄リズムを確認し、時間誘導を行うことでトイレで排泄できるように支援している。また、夜間のみのポータブルトイレ使用なども利用者の身体機能をアセスメントした上で適切に使用できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分摂取の声掛け、日中は出来る限り活動的にし、腸の動きを促せるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態や意見に合わせて入浴支援をしている。入浴時間は設定されているが、ご本人の入浴されたい時間になるべく合わせられるように努めている。	浴室は温泉が引いてあり、湯量も豊富で常に溢れており、温泉浴である事が利用者にとって一番の楽しみになっている。入浴日はおおよそ予定を立てているが、利用者の状況によって臨機応変に対応できている。また、入浴時間は職員とゆっくり個別に話せる機会であり、その事も利用者にとって楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにソファを設置したり、冬期間には利用者が馴染みのあるこたつを用意し、くつろげるようにしている。就寝時間も個々の生活習慣に応じて安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い職員が配薬を行っており、服薬が確認できるまで見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に合わせ可能な限り洗濯物をたたんでもらったり、様々な場面で張り合いのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	用者の状態や気候を見て、散歩へ出掛けたり、町内をドライブし景色や自然を楽しんでもらい外食なども行っている。	自然に恵まれた環境にあり、天気の良い時には屋外に出て陽にあたり、散歩に出かけている。集落内も徒歩では行けない立地条件下にあるため、車で外出する買い物や通院の機会を活かして外出を支援している。計画的に外食やドライブに出かける事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所で預かせてもらっているが、ご本人の希望によって使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用してもらい、家族や大切な方といつでも交流ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、季節感を出すため四季折々の草花や装飾を、ご利用者と職員で制作をし飾り掲示している。居心地の良い環境づくりを心掛け、こまめな掃除や環境整備を行っている。	共用空間は天井が高く、木の梁を使用した温かみを感じられる造りとなっている。玄関初めホール内は段差がなく、空調管理や温度も利用者に合わせて設定するなど、日中のほとんどをホール内で過ごす利用者がゆったりと居心地良く過ごせるように配慮している。また、季節を感じて過ごせるように、季節の行事毎に壁面に塗り絵などの作品や花を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、ご利用者の好きなように過ごしてもらっているが、居室の閉じこもりを防ぐために、定期的に声掛けを行いホールへ誘導し他者と交流できる場を作っている。テーブルの位置も配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご本人が使っていたものを出来るだけ持参してもらい、居心地のいい空間づくりに努めている。	どの居室からも自然豊かな外の風景を日々見ながら過ごすことが出来ている。消灯台と衣装棚が設置してあるほかは、利用者・家族に使い慣れた家具等の持ち込みを依頼している。壁面には、塗り絵等の作品のほか、誕生日の色紙やカレンダーを飾り、好きな雑誌等を見ながらゆったり過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで段差もなく歩行しやすく車イスでも可能な環境にある。手すりも設置されているので、安全・安心して生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				